

第7回登別市史編さん委員会 協議概要

日 時：平成30年10月24日（水） 午後1時30分～

場 所：市役所第2会議室

出席者 委 員 出席8名、欠席2名

事務局 3名

1 諸報告

(1) 上期の取組状況について

平成30年度上期の市史編さん事業に係る取組状況について、次の項目を事務局より説明した。

ア 市外での資料の収集

(ア) 6月7日（札幌市）

a 中村一枝氏

幌別聖公会に関する事項の聞き取り、同氏執筆論文等の借用と内容の説明を受ける。

b 北海道博物館

小川正人アイヌ民族文化研究センター長に資料提供の依頼と市史編さん事業への協力を依頼し、快諾を得る。

c 札幌市立資生館小学校（沿革誌の閲覧）

同校が保管する明治期の沿革誌を閲覧する。

(イ) 6月28日（札幌市、平取町）

a 道立文学館

同館所蔵の知里真志保遺稿ノートのうち本市に係る部分の写真撮影を行う。

b 日本聖公会北海道教区事務所

下田歴史文書保管委員会委員長より聖公会に関する聞き取り調査及び資料の撮影を行う。

c 公益財団法人アイヌ民族文化財団・中村睦男理事長の講演

同氏の講演を聴講するとともに、同氏に市史編さん事業への協力を依頼し、快諾を得る。

(ウ) 7月2日（函館市）

函館中央図書館にて本市に係る資料の写真撮影を行う。

イ 原稿の執筆

調査、収集した資料に基づき原稿の下書きを行っている。

ウ 原稿執筆の依頼

次の分野について外部の方に執筆を依頼している。

昆虫類、菌類、野鳥、クッタラ火山の噴火史、火山防災、地質、教育、道路等

エ 市史編さんだよりの発行

5月と8月に発行した。市内で昭和30から50年代までに撮影された写真と現在の写真を対比させたコーナーについて好評を得ている。また、市史編さんだよりを見た市外の方からも問い合わせや資料の提供を受けることができた。

オ 市広報紙上での連載

その月に起こった出来事を写真と簡単な文章で紹介する記事を連載している。昨年8月から開始しており、2年目に入った今年8月からは、「明治150年」にちなんで明治期の出来事を基で紹介する出来事を選択している。

カ 金井抱二日記の読解

今年4月に市広報紙や市公式ホームページ上で参加者を募集したところ、市内外から5名の応募があり、市職員2名とあわせて7名で毎月1回程度のペースで行っている。

当該日記は、明治40年4月18日から始まっており、同年5月15日までの読解を行った。

キ その他

知里真志保を語る会が主催して同会々員を中心に毎月1回開催されるアイヌ民族の歴史に関する勉強会に参加している。この勉強会で出された意見などを参考にしながら原稿の執筆を行う予定である。

<質疑応答、意見等>

(委員) 外部への執筆を依頼した分野について、昆虫類以外の分野と依頼先を教えて欲しい。また、その一覧を作成し、後日配布してほしい。

(事務局) 一覧を作成し、後日配布します。

(委員) 地元の歴史研究団体などと連携をとることは大事で、アイヌに関する勉強会はとても良い事業である。そのほかに他の団体と連携して行っている事業はあるか。

(事務局) 市史編さん事業の一環として行っているものは無い。その一方で、NPO法人モモンガくらぶが小学生をガイドとして認定する際に、鉾山の歴

史や自然を市民向けにガイドする演習を行うなど、市内でも少しずつ市の歴史に対する興味関心が喚起されているように感じる。

(委員) 登別郷土文化研究会では、毎年「郷土史の夕べ」と題して講演会を開催しているが、今年は小坂氏による「金成マツの『ユーカラ集』と知里幸恵の『アイヌ神謡集』」と題する講演を行っており、今後も地域の文化団体と連携を図りながら活動していきたい。

(委員) 鉾山の金井抱二日記の読解を進めていると言うことで、これも良いことだと思うが、何か特筆すべき様なことは見つかったのか。

(事務局) 軽便鉄道の開通日は、『市史ふるさと登別』で11月30日とされているが、当該日記により11月1日であることが確認された。

幌別鉾山の鉾石は、小田良治が明治40年に試掘を始めた当初は銅鉾石が主であったが、その後、金鉾石が見つかったことにより同鉾山の雰囲気が高揚したこと、また、金井抱二をはじめとする社員も急に多忙になっていく様子が伺われた。

(委員) 以前、登別南高校の人類学研究会が幌別鉾山を調査した際に長内弘氏などを対象に聞き取り調査を行った際のテープが郷土資料館にある。これらも活用していただきたい。

(事務局) 教育委員会に確認し、活用を図りたい。

(2) 原稿内容の確認等今後の事業実施の予定について

平成30年度下期の市史編さん事業の実施予定について、事務局より説明を行った。

ア 原稿の執筆

上期に引き続き原稿の執筆を進めて行く。

イ 原稿の確認

市史編さん委員会委員に原稿内容の確認を行っていただく予定である。また、分野によっては市の各部署にも原稿内容の確認を依頼する予定である。

ウ 市史編さんだよりの発行と市広報紙の記事の掲載

市史編さんだよりは12月と来年3月に発行する予定である。また、市広報紙への記事の掲載も毎月行っていく予定である。

エ 資料の収集

現在も市内外の方から資料の提供に関するご連絡をいただくことがあり、まだ、各家庭に市の歴史に関する資料が保管されているものと推測さ

れる。

このような資料は、代替わりの際に発見され、廃棄や散逸することが多いことから、そのような事態を免れるために継続的に市への資料の提供等と呼びかけていきたい。

オ 金井抱二日記の読解

長内弘氏が、その著書『史観』で呈された『登別町史』や『市史ふるさと登別』の記載事項に対する疑義の内容を確認するため、当該記載事項の起きた日付の前後を中心に読解を進めていきたい。

<質疑応答、意見等>

1 原稿内容の確認について

(委員) 原稿の確認は、誤字脱字はもちろんのことであるが、一番難しいのは記載された内容等で十分市民に理解されるのか、記載された内容に不足はないのかと言う点である。

また、それぞれ行政と福祉などのように重複する内容が必要になる部分が多分にあり、その記載内容の分野間の住み分けを判断していく必要があると思う。

(委員) 市の事業や人物で評価の定まっているものについては、その評価に基づいて記述していけば良いが、評価がわかれているものや、あまり芳しくない評価について記述する際は、個人の見解は当然慎むべきで節度を持って事実を淡々と書く姿勢が必要である。

(事務局) 当初段階の原稿については、分野間での重複を承知の上で執筆を進めたいと思う。また、事業や人物の評価についても、資料に基づいて執筆するのは当然のことながら、良い面、悪い面を含めて全て書きたいと思う。

その上で、委員の皆様とも検討を重ねていき、最終的な原稿を作成したいと考えている。

(委員) 原稿の点検においては、通常は市役所内に設けた一室で各委員が読み込み点検をすることになるが、それだけでは終わらないことも想定されるが、それについてはどのように考えるのか。

(事務局) 原則としては市役所内で点検していただくことになるが、それで終わらない場合は、委員と相談して個別に対応したいと思う。

2 収集した資料の保管等について

(委員) 資料の収集、保存方法については、市史を刊行した後に検討しようとするとなかなか出来るものではないので、早い段階から教育委員会や総務など十分協議をして方向性を決めておく必要がある。

今後、子ども達や次の時代の研究者たちが、現在収集した資料を基に郷土史の研究を進めていけるようにして欲しい。

(委員) 「明治期からの資料である「村治類典」が登別市に残っていることは、郷土史の研究を進める上で貴重な財産になっている」と宮武先生もおっしゃられており、私も同感である。しっかりとした保存と保管の体制を築いてほしい。

(委員) 資料の保存はとても大切なことだと考える。保存する際の媒体についても何が良いのかを考えて行く必要があるものと思う。

(事務局) 「村治類典」については、数年に一回ずつCD-Rに焼き直して保管をしている。今後、技術が進歩して、現在の保存している形式が時代遅れになるときが来るかもしれないが、このCD-Rに焼き直すタイミングなどで見直しを図っていききたい。その他の資料についても、原本の保管もしていくが、デジタル化した資料についても、「村治類典」同様の保存を図っていききたい。

また、市の図書館においても郷土資料室の充実を図りたいと考えていると聞いている。今回の市史編さん事業の中で収集した資料は、図書館又は社会教育グループにも引き継ぐことになると思うので、今後の保管方法等を関係する部署を交えて協議していききたい。